

平成29年度県北地域農業改革の取組成果について

I 中山間地域特産品目振興プロジェクト

[主な成果]

1 常陸・奥久慈の園芸品目のブランド化推進

【りんご】

- 大子町のオリジナル品種『奥久慈宝紅（おおくじほおべに）』について、JA 部会や青年部等が連携し、苗木の生産・配付及び高接ぎを推進した結果、9割[44/49戸]の部会員が導入し、収穫された約350kgをPRや試食等に利用しました。
なお、大子町からの申請により「奥久慈宝紅」「奥久慈りんご」の2つの名称が7月7日に商標登録されました。
- 農林・商工関連の補助事業を活用して加工品開発を支援した結果、新たにアップルケーキ、アップルパイ、ジュースの加工品が開発できました。



『奥久慈宝紅』

【ぶどう】

- 常陸太田ぶどう部会オリジナル品種「常陸青龍」の面積拡大を図るため、台木の芽かき、接ぎ木による苗木生産を指導した。「巨峰」及び「常陸青龍」の栽培講習会(2回)、地区ほ場見回り会(7/15, 4地区)を実施し、品質安定を推進しました。
- 欧州系品種の省力技術として、果房整形技術を検討した結果、ハイバリー、シャインマスカット等において摘粒作業で慣行比70%減の省力効果が確認できました。また、省力果房の詰め合わせセットの消費者評価を実施したところ、慣行の果房と同程度の評価が得られました。(評価※。単価が同等)



省力果房ぶどうの
詰め合わせ見本



常陸青龍の苗木管理

【奥久慈なす】

- 新規栽培者を確保するため、広域PRちらしの作成(8月)やJA広報誌や市報(9月)で栽培者を募集した結果、今年度新規で7名が新たに栽培を開始しました。また、次年度栽培でも4名(新規参入1名)を確保できました。
- 部会全体の収量・品質の向上を図るため、経験の浅い新規栽培者や若手生産者などを支援重点対象者に位置づけ、地区毎(月1回)に研修会を開催し、技術の高位平準化を図ったことで、収量・品質の安定につながりました。今年の作柄は、日照不足の影響を受けましたが、出荷量(前年比101%)、販売金額(同96%)[4~12月実績]とも概ね前年並みを維持できました。



奥久慈ナスの栽培研修会

【枝物】

- 枝物の新たな品目としてサクラ・レンギョウの早期出荷に取り組み、JAと連携して12月から「奥久慈桜」(1,202束)、1月から「レンギョウ」(30束)の出荷が始まりました。
- 枝物の効率的な受発注やPRを行うため、JAと連携して「産地改革チャレンジ事業」を活用しながら「受注システムの構築(試行版)」と「QRコード入りシール」の作成などに取り組みました。



奥久慈桜

2 花貫フルーツほおずきのブランド化の推進

- 「花貫フルーツほおずき倶楽部（19戸，48a）」を対象に，栽培講習会や巡回指導を実施し，栽培管理技術の向上に取り組みました。
- ほおずきの加工品では，県農産加工指導センターと連携して試作を支援した結果，クッキーやタルトの試作品の試験販売が実施できました。



現地検討会の様子



クッキー，タルトの試作品

- 販路拡大を推進するため，キックオフイベントの開催（8/1）や農家マルシェへの出展（9/10），高萩茶寮におけるPRなどの活動を支援しました。

3 常陸秋そば産地の活性化

- 生産者に対しモデル経営指標を提示して，作付拡大を推進したことで，種子そば3haの面積拡大に結び付けました。種子そばについて，土壤分析に基づく土壤改良の支援に取り組み，計画を上回る種子が確保できました。（17t → 20.2t[H29見込]）また，原種そばの新規栽培者を1名（18a分）確保できました。
- 栽培ほ場の地力の目安となる可給態窒素を測定したところ，金砂郷地区では地力窒素が低水準であることが明らかになりました。また，緑肥として導入したナタネは，単位面積あたりの収量が81kg/10a（昨年73kg/10a）と向上しましたが，凍害を受けたほ場が発生したことから全生産量は145kg（前年364.5kg）に留まりました。
- 「常陸秋そば」のPRのため，J2水戸ホーリーホックのイベント（9/30）に参加し「けんちんそば」をPRしました。



種子そばのほ場審査

II 中山間地域の水田・畜産経営強化プロジェクト

[主な成果]

1 担い手への農地の集積・集約化の推進

- 農地中間管理事業を活用して，29年度に新たに2市4地区をモデル地区として推進した結果，47.7haを担い手へ集積できる見込みとなりました。

モデル地区事例1

多面的機能支払交付金を活用するなど組織活動が活発な地区に対して推進した結果，地区面積69.57haのうち16.45haを9つの経営体に農地を集積・集約することができました。

モデル地区事例2

枝物の生産拡大を振興している地域において，担い手である枝物部会が中心となって話し合いを進めた結果，地区面積17.22haのうち8.00haを6つの経営体に農地を集積・集約することができ，併せて定年帰農者や新規就農者の営農定着を進めることができました。

- 県北管内において，集積集約に向けたマッチングを行った結果，4市で合計105.7ha（モデル地区分を含む）の農地を中間管理事業を活用して担い手に集約することができました。



上河合地区の全景



モデル地区の話し合い

2 米の食味ランキングにおける「特A」評価の取得

- 県北コシヒカリの「特A」を取得するため土壌改良資材を活用した「特A」取得モデルほ場4カ所や食味ランキング専用ほ場5カ所を設置し、栽培管理指導や収穫後の二段乾燥、専用袋での貯蔵等を行いました。
- 「特A」チャレンジ米を選定するため、収穫後、普及等で玄米品質や食味の測定を行い、JA、集荷業者等と連携した結果、収集サンプル9点を選定できました。
- 食味ランキング出品米を厳選するため、全サンプル（計27点）から県内評価員に五ツ星お米マイスター等の助言のもと食味官能評価により日本穀物検定協会へ出品する1点を選定（11/14）し、「特A」を取得することができました。



「特A」取得モデルほ場巡回

3 飼料用米等の生産支援（高萩市赤浜地区）

- 「夢あおば」の収量が685kg/10aと目標収量（630kg/10a）を超えることができました。また、地区全体の平均収量も495kg/10aと基準収量（481kg/10a）を達成することができました。
- 管理作業の省力化のため、流し込みによる追肥の現地検討会（7/28）を開催した結果、実作業時間は5分/10a（従来法：12分/10a）と短く、軽作業のため参加者から好評を得られました。



流し込み施肥の実演
（ほ場の水口）

水稻栽培現地検討会
～流し込み施肥技術～

4 繁殖和牛の確保推進

- 新たな担い手を確保・育成するため、「新規繁殖和牛経営入門講座」を開講し、12名が受講しました。また、受講生の中の就農希望者（4名）に対して、就農相談を実施しました。
- 放牧や繁殖雌牛導入の推進を図るため、大子町和牛繁殖活性化クラスター協議会の検討会へ参画する等、放牧や繁殖雌牛の導入を推進した結果、各種補助事業を活用して合計123頭（45戸）が導入されました。



「入門講座」農家実習

5 畦畔管理の省力化技術の確立

- 畦畔管理の省力化を図るため、①除草剤の効果的な活用と②カバープランツ導入について2カ年現地実証等の検討を行い、得られた成果をもとにそれぞれ技術資料を作成して県北農林事務所ホームページに掲載しました。
- 現場へ普及するため、農地の保全など集団で取り組む多面的機能支払交付金の活動組織や中山間等地域直接支払制度に取り組む集落を対象に「畦畔管理省力化技術に関する説明会」を開催しました。（262名参加）
参加者からは「除草剤の特性を理解したうえで、上手に組み合わせることで除草作業の省力化が図れることがわかった」、「カバープランツは導入コストが高価であるが、交付金を上手に活用しながら畦畔全体を覆うことができれば、長期的には除草作業を軽減できることがわかった」などの意見が得られました。
- 今後も技術資料など活用して事業の推進と併せて畦畔管理の省力化技術をPRしてまいります。



現地調査を行った畦畔
（センチピードグラスを導入）



畦畔管理省力化技術に
関する説明会

Ⅲ 担い手の確保・育成プロジェクト

[主な成果]

1 新規就農者等担い手の育成

- 新規就農に関する情報発信を強化するため、「就農支援ページ」をホームページ上に設けて、就農事例の紹介や就農するまでのフロー、各種支援事業など情報提供を始めました。
- 新規就農者の経営確立に向けた指導、相談等サポートを実施した結果、青年等就農計画認定3名、青年等就農資金貸付1名、農業次世代人材投資資金新規受給5名（準備型1名、経営開始型4名）となり、就農及び就農後の定着に向けた支援を行うことができました。
- 就農相談などで関係者が共有して活用するために、地域支援アドバイザーリストを作成しました。（30名）
- 経営管理能力の向上と法人化を推進するために、「いばらき農業アカデミー（法人化促進事業）」を全4回開催しました。（参加者：延べ68名）



就農相談会



法人化促進講座

2 農協出資型法人の支援

- 雇用労働の導入を支援するため、農場見学&就農相談会を開催した結果、2名の研修希望者を確保することができました。
- 産地担い手確保・育成応援事業の活用により確保された、短期研修生1名に対し、就農定着を進めるため、就農計画の作成支援を行った結果、常陸大宮市内で平成30年3月に就農しました。
- 畑地帯総合整備事業三美地区において野菜の栽培管理技術に関する支援を行った結果、秋冬ネギ3ha、カンショ2haのほか輪作作物として麦、デントコーンなどが作付され、ネギを中心とした効率的な作付体系を進めることができました。



農場見学会



三美地区ほ場

3 イノシシ対策の支援

- イノシシ対策では、茨城栃木鳥獣害広域対策協議会等への参加により関係機関と情報を共有化しました。
- モデル地区の取組を基にした地域ぐるみでの獣害対策推進では、囲い罫を運用する常陸太田市里川町（1カ所）と常陸大宮市下桧沢（2カ所）に加えて、今年度新たに電気柵とネット資材を組み合わせた「中型動物の被害防止柵（略称：楽落くん）」を設置した13か所を獣害対策モデル地区としました。新たなモデル地区で被害は認められませんでした。
- 獣害対策サポーターと連携してミニ猪塾（水府あづま集落組合研修会）を開催（12/10）した結果、地域住民からは参考になったとの意見も聞かれ、イノシシの動態や柵の適正な設置及び管理について、住民の意識を高めることができました。



楽落くん設置モデル展示圃



ミニ猪塾での集落点検の様子

IV 新たな道の駅を活用した地域活性化プロジェクト

[主な成果]

1 常陸太田市「道の駅」の支援

- 農産物の出荷ルール等の改善を提案し、出荷者協議会役員を中心とした品質チェック体制が確立されました。6月から月1回の間隔で品質チェック活動を実施し、見た目の良い袋詰めなどの優良事例を出荷者に紹介しました。
- 出荷者協議会に対して、地場産率の低い品目を提示するとともに栽培暦を作成して作付けを推進した結果、地場産率 70%以上の重点品目が3品目（ハクサイ、コギク、夏秋トマト）に増加しました。また、エダマメ（35%→53%）、とうもろこし（33%→53%）、秋冬レタス（36%→43%）、ニンジン（45%→55%）も地場産率が向上しました。
- トマト体験ほ場での周年受入れができるよう、栽培管理計画を作成し、栽培支援者とともに栽培担当者に技術指導を実施しました。年間を通じてコンスタントに収穫体験の受入（434名（4～12月））ができ、経験の浅い栽培担当者も基本的な栽培管理方法を習得できました。



品質チェック活動の様子

2 常陸大宮市「道の駅」の支援

- 新品目（カーリーケール、カリフローレ等洋野菜）及び品薄品目（スイカ、秋ジャガ、タマネギ、冬取り葉根菜類等）の生産拡大のため、出荷部会とともに年間活動計画を作成し、作付の推進と栽培管理指導を実施しました。直売所の地場産率は61%（H28）から64%（月別60～70%）に向上しました。
- 直売所の魅力を高めるため、6次産業化プランナーを活用した研修会を開催した結果、ポップやレシピー等の店内表示や野菜コーナーが改善されました。
- 道の駅と地域農業者等が連携した交流イベントの開催を支援し、出荷部会によるカーリーケールサラダや洋野菜料理の試食PR、常陸大宮5Hクラブによる地元農産物の試食提供、奥久慈いちご研究会によるイチゴフェアが実施されました。また、農業体験活動として「小祝エゴマの学校」の開催（全6回）を支援し、市内外から述べ111名が参加しました。



スイカの栽培講習会



改善された店内表示